
一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第13回学術教育セミナー

プログラム・抄録集

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115-0055 東京都北区赤羽西6-31-5 (株)学術社内

TEL : 03-5924-3621 FAX : 03-5924-4388

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第13回学術教育セミナー

プログラム・抄録集

開催日 2023年10月29日(日)

開催方式 ハイブリッド方式

会場聴講 & リアルタイム配信：2023年10月29日(日)

録画配信：2023年11月1日(水)～
2週間配信(予定)

会場 AP 東京八重洲：KPP 八重洲ビル 12F

主催 一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理事長 坂下 英明 (我孫子聖仁会病院口腔外科センター長)

委員長 矢郷 香 (国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科教授)

代表世話人 岡本 俊宏 (東京女子医科大学歯科口腔外科学講座
顎口腔外科学分野教授)

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

〒115-0055 東京都北区赤羽西6-31-5 (株)学術社内

TEL：03-5924-3621 FAX：03-5924-4388

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
第13回学術教育セミナー

【メインテーマ】

全身疾患に対する歯科医療の関わり ―医科と歯科の連携を通して―

PROGRAM

9:30 ~ 9:45

開会のご挨拶

理事長 坂下 英明

学術研修委員会委員長 矢郷 香

総合司会： 代表世話人・学術研修委員会委員 岡本 俊宏
町田市民病院歯科・歯科口腔外科部長 小笠原健文

[午前の部]

9:45 ~ 10:40

1. 「掌蹠膿疱症および掌蹠膿疱症性骨関節炎の発症契機となる歯科疾患」 …… (8)

講師：聖母会聖母病院皮膚科部長 小林 里実 先生

座長：東京歯科大学口腔病態外科学講座教授 片倉 朗 先生

10:45 ~ 11:40

2. 「口腔病変と皮膚・粘膜疾患 oral allergy syndrome・金属アレルギー
～原因診断のための皮膚テスト～」 …… (10)

講師：公益財団法人日本エステティック研究財団理事長

稲田堤ひふ科クリニック 関東 裕美 先生

座長：国際医療福祉大学病院口腔外科教授 岩渕 博史 先生

PROGRAM

[午後の部]

12:00 ~ 12:50

3. 「2023 年最新 MRONJ ポジションペーパーの概要」 (12)

講師：信州大学医学部歯科口腔外科学教室教授 栗田 浩 先生

座長：霞ヶ浦医療センター歯科口腔外科部長 吉田 俊一 先生

13:10 ~ 14:05

4. 「慢性腎臓病と歯科診療」 (14)

講師：国際医療福祉大学医学部腎臓内科教授

山王病院腎臓内科部長 竹中 恒夫 先生

座長：東京慈恵会医科大学附属病院歯科口腔外科教授 林 勝彦 先生

14:10 ~ 15:05

5. 「糖尿病と歯周病：ガイドライン 2023 と最新のトピック」 (16)

講師：九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野教授 西村 英紀 先生

座長：がん・感染症センター都立駒込病院歯科口腔外科医長 山内 智博 先生

15:10 ~ 16:05

【株式会社セキムラ 共催セミナー】

6. 「局所麻酔薬の使用に注意すべき患者と静脈内鎮静法」 (18)

講師：日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座教授 山口 秀紀 先生

座長：東京大学医学部口腔顎顔面外科・矯正歯科准教授 西條 英人 先生

16:05 ~

閉会のご挨拶

代表世話人・学術研修委員会委員 岡本 俊宏

受講について

この度は日本有病者歯科医療学会「第13回学術教育セミナー」をご受講いただきありがとうございます。下記、手順に従ってご受講ください。

○ ハイブリッド方式

会場聴講 & リアルタイム配信：2023 年 10 月 29 日 (日) 9:00 開場, 9:30 開講, 16:10 終了予定
録画配信：2023 年 11 月 1 日 (水) ～ 2 週間配信 (予定)

○ ログインパスワード 別途ご登録メールアドレスへお知らせいたします

■ ログイン・視聴方法

1. 入金確認メールに記載された URL より視聴ページのログイン画面に接続が可能です。
入金確認メール件名：「【入金確認】一般社団法人 日本有病者歯科医療学会 第13回学術教育セミナー 視聴ページのご案内」
2. 入金確認メールに記載されているログイン ID とパスワードをご入力いただき、「送信」をクリックして視聴ページへお入りください。
3. 【リアルタイム配信】 視聴ページ内にある【リアルタイム配信を受講する】ボタンより、Zoom にて WEB セミナーを受講いただけます。
【オンデマンド配信】 配信ページの各プログラムをクリックすると配信が始まります。各プログラムは独立しておりますので個別に視聴することが可能です。また、期間内であれば繰り返し視聴することも可能です。

■ 参加証（会場聴講用）について

会場聴講については、参加証が必要です。
ご登録のメールアドレスに、会場案内等と共に、お送りいたします。

■ 領収証について

領収書は金融機関の振込明細をもって代えさせていただきます。

■ 修了証について

修了証はリアルタイム配信の視聴時間または録画配信の視聴時間の集計を行い、参加登録申込時に記入いただいたメールアドレス宛に発行致します。

■ ご注意

1. 配信期間以外は視聴できません。期間内に受講を終了するようにご計画ください。
2. 必ずお知らせしたパスワードでログインし、登録者以外の方がご使用にならないようご注意ください。
3. 通信環境、使用される機器の不具合等による視聴不能については責任を負いかねます。
4. 映像、講演内容、使用されている画像・図表等には著作権が存在します。無断複製、転載、改変、配布、販売を固く禁じます。
5. その他、第13回学術教育セミナー配信ページの注意事項をお読みの上ご受講ください。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

理事長 坂 下 英 明

(我孫子聖仁会病院口腔外科センター長)



第13回学術教育セミナーの開催にあたって

(社)日本有病者歯科医療学会の第13回学術教育セミナーは、2023年10月29日(日)に開催されます。約4年間に渡る新型コロナウイルス感染症の影響は、感染症法の2類から5類への変更となった後もいまだに燻り続けており、再流行の兆しさえ伺わせます。このため、完全なリアル開催とはできませんでしたが、会場での聴講を一部で復活(定員制・先着順)し、Web配信の準備も致しました。

タイトルは「全身疾患に対する歯科医療の関わりー医科と歯科の連携を通してー」であります。その内容は、医科からは「掌蹠膿疱症および掌蹠膿疱症性骨関節炎の発症契機となる歯科疾患」、「口腔病変と皮膚・粘膜疾患 oral allergy syndrome・金属アレルギー ～原因診断のための皮膚テスト～」,「慢性腎臓病と歯科診療」を、また歯科からは「2023年最新 MRONJ ポジションペーパーの概要」、「糖尿病と歯周病: ガイドライン 2023 と最新のトピック」、「局所麻酔薬の使用に注意すべき患者と静脈内鎮静法」をそれぞれ当代一流の演者に御講演をいただきます。

これらは、「日常の歯科診療で全身的になんらかの配慮を必要とする基礎疾患を有した患者(いわゆる有病者)に対し、開業歯科医院で対応し得る医学的知識の研鑽あるいは臨床に直結した全身管理を普及させること」の本学会の設立目的を具現化した内容そのものと申しても過言ではありません。

さらに、会場での参加がやむを得ない事情で可能ではなかった方々が受講できますように、Web配信の期間を十分に設定してありますので、こちらにもふるってお申し込みください。

全受講者にとりまして、本セミナーの内容が、臨床の糧になることを確信しつつ、御挨拶させていただきます。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会
学術研修委員会委員長 矢 郷 香
(国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科教授)



第13回学術教育セミナーを2023年10月29日(日)に開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。ようやく新型コロナウイルス感染症が「第5類感染症」となり行動制限が緩和されましたので、今回は人数を制限してFace to Faceでの会場参加とWebによるリアルタイムと2週間のオンデマンド配信方式とさせていただきます。毎回セミナー終了後にアンケート調査を行っていますが、やはり現地で生の講演を聴いて質疑応答をしたいというご意見と東京まで行くのが大変という参加者のためにライブおよび自由な時間に聴講できるオンデマンド配信という会員の皆様のご要望を尊重した開催としました。ご高名な講師および勉強熱心な会員の皆様のお陰で本セミナーは大変好評で、毎回多くの方にご参加いただきありがとうございます。

今回は、東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学講座の岡本俊宏先生が代表世話人で、メインテーマは、「全身疾患に対する歯科医療の関わりー医科と歯科の連携を通してー」です。医科歯科連携ということで医科から3名、歯科から3名の先生にご登壇いただきます。今まで皮膚科の先生にご講演いただく機会がありませんでしたが、口腔粘膜疾患は皮膚疾患と深い関連があり根尖病変など菌性感染症や歯科用金属が掌蹠膿疱症などの皮膚疾患の原因となることがあります。小林里実先生と関東裕美先生の皮膚科の先生お二人とまだ腎臓病についての研修がなかったので、腎臓専門医の竹中恒夫先生にご講演賜ります。腎不全で人工透析になるのは糖尿病患者が多く、歯周病は糖尿病の第6の合併症と言われていますので、慢性腎臓病は歯科医療と深い関わりがあります。

歯科からは、今年、本邦で「薬剤関連顎骨壊死のポジションペーパー」と「糖尿病と歯周病のガイドライン」が改訂されたのでその概要と最新のトピックスについて栗田 浩先生と西村英紀先生にご講演いただきます。歯科治療に麻酔は欠かせませんが、基礎疾患によっては局所麻酔薬の使用には注意が必要です。最後に山口秀紀先生に局所麻酔薬と静脈内鎮静法についてお話いただきます。

本セミナーは、事前およびリアルタイム配信時に質問をお受けし、講師の先生方にご回答いただきますので、是非ともこの機会をご活用ください。

最後に、本セミナー開催にあたり、お忙しい中、ご講演賜ります講師の先生方、多々ご尽力をいただきました岡本俊宏先生はじめ、ご高配、ご協力を賜りました関係者各位に心から御礼申し上げます。

ご挨拶

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

代表世話人・学術研修委員会委員 岡 本 俊 宏

(東京女子医科大学医学部歯科口腔外科学講座
顎口腔外科学分野教授・基幹分野長)



今年度 10 月 29 日 (日) に開催される第 13 回日本有病者歯科医療学会学術教育セミナーの代表世話人として、ご案内方々ご挨拶申し上げます。

今回のメインテーマは「全身疾患に対する歯科医療の関わり ―医科と歯科の連携を通して―」と題して開催いたします。医科歯科連携とは、ある疾患に対して医科と歯科が協働することで総合的な治療を提供する方法となります。医療連携の課題としては、医師のなかで全身疾患に関連する歯科疾患への認知度が低いことや、われわれ歯科医においても全身疾患に対する理解不足など様々な課題があるかと思います。そこで歯科口腔の分野と様々な全身疾患との関連について深く理解し、その上でいかに医科と歯科の連携を構築するかを考える機会となるセミナーを企画いたしました。

最初に、聖母会聖母病院皮膚科の小林里実先生に歯科疾患と関わりの深い掌蹠膿疱症および掌蹠膿疱症性骨関節炎について症例を交えてご講演をいただきます。続いて、稲田堤ひふ科クリニックの関東裕美先生より金属アレルギーに関連した口腔アレルギー症候群についてご説明いただきます。午後は、信州大学歯科口腔外科学教室 栗田 浩先生に 2023 年最新の MRONJ ポジションペーパーの改訂ポイントを中心にその概要についてご解説いただきます。そして、国際医療福祉大学山王病院腎臓内科の竹中恒夫先生より歯科疾患を有する事が多い慢性腎臓病や透析患者に対する歯科診療の注意点に関してお話を伺います。次に、九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野の西村英紀先生に 2023 年 6 月に発行されたばかりの「糖尿病患者に対する歯周病治療ガイドライン改訂 3 版」から最新のトピックに関して伺います。最後に、日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座の山口秀紀先生からテーマとして会員からのご要望が多かった「局所麻酔薬の使用に注意すべき患者と静脈鎮静法」(株式会社セキムラ共催セミナー) についてご講演をいただきます。

今回は定員制ではありますが、Web に加えて 4 年ぶりに会場での聴講を復活しての開催となります。是非会場にもお越しいただき、今回の企画が先生方の日常診療に少しでも助力となれば幸いです。

最後に本セミナー開催にあたりご尽力を賜りました、坂下英明理事長、矢郷 香学術委員長はじめ委員会の先生方、関係者各位、快諾していただいた講師の先生方に厚く御礼申し上げます。

掌蹠膿疱症および 掌蹠膿疱症性骨関節炎の 発症契機となる歯科疾患



聖母会聖母病院皮膚科部長 小林 里実

掌蹠膿疱症（palmoplantar pustulosis: PPP）は手掌と足底に無菌性膿疱が多発する疾患で、約30%の患者では骨関節症状を伴い、掌蹠膿疱症性骨関節炎（pustulotic arthro-osteitis: PAO）と呼ばれている。日本人の女性に多く、人目に触れる部位に多発する膿みは、感染する、汚いと他人から拒絶されたり、PAOの80%が罹患する胸鎖関節炎では呼吸や寝返り、着替えごとに激痛に襲われ、自立した日常生活を営めないなど、患者のQOLを大きく障害する。皮疹は可逆的であるが、骨炎が進行すると不可逆的となり、脊椎炎では多発性脊椎骨折を来すこともある。NSAIDsの長期にわたる過剰服用も稀ではない。しかし、日本人のPPPとPAOは喫煙や病巣感染と深い関連があるのが特徴で、これら悪化要因を除去することにより進行が止まり、症状の改善がみられ、さらには治癒し得る疾患である。感染病巣として重要なのが、無症状の菌性病巣と扁桃炎、慢性副鼻腔炎である。菌性病巣治療や扁桃摘出の有効率は80%程度に及ぶことが報告されており、2022年に上梓された診療ガイドラインにて、あらゆる薬剤や生物学的製剤は対症療法に過ぎず、PPPとPAOの治療で最も重要なのは病巣治療と禁煙であることが明記された。すなわち、PPPとPAOは、皮膚科、整形外科、リウマチ科が取り扱う疾患でありながら、耳鼻咽喉科、歯科および歯科口腔外科が治療の主役を担うのである。なお、予てより注目されてきた歯科金属アレルギーの位置づけについては、PPPの悪化要因の5%程度にとどまり、PAOの発症には関係しないとの見解に至った。ここで問題となるのが、病巣が無症状である点で、菌性病巣も扁桃も通常では治療対象にならないが、敢えて、PPPとPAOの治療として侵襲的な施術を実施していただけないか、我々はこのような依頼を出す必要に迫られる。病巣を放置すれば患者の健康な骨が侵され、骨折のリスクを生じる、胸鎖関節炎が重症であれば何年も激痛と闘い、自分で衣服の着脱すらできない生活を強いられ、生きる気力を失っていく。PPP、PAOの契機となる菌性病巣には根尖性歯周炎、辺縁性歯周炎、智歯周囲炎がある。マイクロバイオーマに関わる免疫反応から生じるPPPとPAOの根尖病巣治療では抜歯を余儀なくされる例も多く、しばしば複数の根尖病巣を有することから、短期的、長期的な咀嚼機能の保持が問題となる。歯科学会のご協力の下、知識共有と建設的な議論を重ね、患者のための診療連携の構築を切にお願いする次第である。

Profile

[略 歴]

平成 元 年	東京女子医科大学医学部 卒業
平成 3 年	東京女子医科大学皮膚科学教室 助手
平成 10 年	米国 School of Medicine, Case Western Reserve University ポストドクトラルフェロー (Prof Kevin D Cooper に師事)
平成 12 年	東京女子医科大学皮膚科学教室 助手
平成 18 年	東京女子医科大学皮膚科学教室 講師
平成 20 年	社会福祉法人聖母会 聖母病院皮膚科 医長 東京女子医科大学皮膚科学教室 非常勤講師
平成 28 年	社会福祉法人聖母会 聖母病院皮膚科 部長 現在に至る

[患者会活動]

2005 年 ～	東京乾癬友の会 P-PAT ウイメンズ顧問医
2020 年 ～現在	PPP コミュニティ顧問医

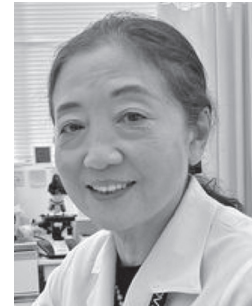
[賞 罰]

2016 年	日本乾癬学会 鳥居・帝國乾癬研究奨励賞
2020 年	日本皮膚免疫アレルギー学会 優秀演題症銅賞

[学会ほか]

2013 年 ～	日本皮膚科学会東京支部 学校保健支援活動実施委員会コアメンバー
2017 年 ～ 現在	日本皮膚科学会 皮膚疾患ケア看護師制度委員会委員
2018 年 ～ 現在	日本皮膚科学会 代議員
2018 年 ～ 現在	日本皮膚免疫アレルギー学会 代議員
2019 年 ～ 現在	日本小児皮膚科学会 運営委員
日本乾癬学会	
日本リウマチ学会	
日本脊椎関節炎学会	
日本研究皮膚科学会	
American Academy of Dermatology	
European Academy of Dermatology and Venereology ほか	

口腔病変と皮膚・粘膜疾患 oral allergy syndrome・金属アレルギー ～原因診断のための皮膚テスト～



公益財団法人日本エステティック研究財団理事長
稲田堤ひふ科クリニック

関 東 裕 美

食物アレルギーは食物によって引き起こされる抗原特異的な免疫学的機序を介して生体にとって不利益な症状を惹起される現象と定義されており、その原因アレルゲンは食物以外の場合もあり侵入経路もさまざまである。発症機序は免疫学的関与に基づき IgE 依存性と IgE 非依存性に分けられ、アレルゲン暴露から症状誘発までの時間経過により即時型と非即時型に分けられる。その症状として皮膚・粘膜・呼吸器・消化器・神経・循環器など様々な臓器症状が誘発されるが皮膚症状が高率とされている。早期適切な対処がなされないとアレルゲン侵入により複数臓器に全身性アレルギー症状が惹起されてしまう。いわゆるアナフィラキシーショックに進展する症例がおよそ 10% 認められるという。乳児期に複数の食物アレルギーを獲得した患児は喘息、アレルギー性鼻炎（花粉症）、アトピー性皮膚炎などアレルギーマーチ発症リスクが高くなる。花粉症発症後に花粉と交差抗原性を有する植物食物を経口摂取してアレルギー症状を来してしまうことがある。花粉食物アレルギー症候群と診断されるが、口腔咽頭症状に限局することが多いので、口腔アレルギー症候群（oral allergy syndrome : OAS）とも呼ばれている。カバノキ科植物感作症例がバラ科の果物（モモ・サクランボ・リンゴなど）摂取時に咽頭違和感を訴える症例がよく知られているが、一人の患者が複数の原因食物を持つことが多い。アレルギー活性状態のスクリーニング診断には血液検査を行うが、OAS の診断には原因アレルゲンを皮膚に穿刺して即時型反応を誘発させるプリックテストが有用である。野菜果物類の市販アレルゲンエキ스는ないので、患者が心配している果物や野菜を持参させてプリック針を用いて野菜果物の汁をプリック針につけて患者の皮膚に穿刺し紅斑、膨疹の有無を確認する（prick- to- prick test）。OAS の主な原因アレルゲンは熱に不安定なので加熱処理された加工食品は摂取可能なことが多い。花粉症を放置して過ごされている症例では免疫学的均衡が保てずに関連食物の過剰摂取により重症化する可能性がある。花粉症人口が増加傾向にある昨今、OAS 症状の有無について把握し原因確認をして適切な治療・生活指導が必要である。

Profile

[学歴および職歴]

1980 (昭和 55) 年 3 月	東邦大学医学部医学科卒業
1981 (昭和 56) 年 6 月	東邦大学医学部附属大森病院にて研修
1982 (昭和 58) 年 2 月	東邦大学医学部助手 (皮膚科学教室)
1985 (昭和 60) 年 12 月	皮膚科専門医 第 3130 号
1986 (昭和 61) 年 1 月	国家公務員共済組合連合会東京共済病院医長
1988 (昭和 63) 年 1 月	東邦大学医学部助手 (皮膚科学教室) 復職
1990 (平成 2) 年 5 月	東邦大学医学部皮膚科学講座助手退職
1990 (平成 2) 年 6 月	日産厚生会玉川病院医長
1995 (平成 7) 年 6 月	同 部長
1997 (平成 9) 年 6 月	東邦大学医学部皮膚科学第一講座助手復職
1999 (平成 11) 年 1 月	認定産業医 9806973 号
1999 (平成 11) 年 8 月	博士 (医学) 取得 (東邦大学乙第 2126 号)
2000 (平成 12) 年 9 月	米国 Cincinnati 大学皮膚科学教室留学
2005 (平成 17) 年 11 月	東邦大学医学部皮膚科学第一講座講師
2007 (平成 19) 年 11 月	東邦大学医学部皮膚科学第一講座准教授
2010 (平成 22) 年 12 月	東邦大学医療センター大森病院スキンヘルスセンター
2012 (平成 24) 年 10 月	東邦大学医療センター大森病院皮膚科臨床教授
2020 (令和 2) 年 4 月	東邦大学医学部皮膚科学講座客員教授
2022 (令和 4) 年 6 月	稲田堤ひふ科クリニック 現在に至る

[学会の役職 (公的委員会活動などを含む)]

- 1) 日本皮膚免疫アレルギー学会, 学術教育委員, 学会所属日本接触皮膚炎研究班監事
- 2) 公益財団法人 日本エステティック研究財団理事長
- 3) 公益社団法人 日本毛髪科学協会副理事長
- 4) 消費者庁 消費者安全調査委員会サービス等事故調査部会 臨時委員
- 5) 文部科学省 大学設置分科会・設置計画履行状況等調査委員会委員
- 6) 独立行政法人国民生活センター・商品テスト分析・評価委員会委員

2023 年最新 MRONJ ポジション ペーパーの概要



信州大学医学部歯科口腔外科学教室教授 栗田 浩

薬剤性顎骨壊死（MRONJ）は全く新しい疾患であり、その病態を始め、病因、発症メカニズム、予防、治療、予後など不明な点が多く存在している。また、MRONJ の誘因として抜歯等の歯科外科処置があげられたこともあり、処方医と歯科医の間で病因、扱いに関して論争を引き起こしている。いまだ MRONJ には多くの疑問点が残されたままであり、疾患の解明と日々の情報更新が求められている。

この新しい疾患に対応すべく、米国口腔顎顔面外科学会（AAOMS）は 2007 年にいち早くポジションペーパー（PP）として指針を示した。その後、2009、2014 年に改訂を行い、情報のアップデートを行っている。我が国では 2010 年に社団法人日本口腔外科学会から BRONJ の PP が出された。その後いくつかのアップデート、情報発信が行われ、2016 年には歯科、医科が協働する形で顎骨壊死検討委員会が組織され、「骨吸収抑制薬関連顎骨壊死の病態と管理：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー 2016」が出された。現在でもこの PP が広く引用されている。その後も、本疾患に関しては多くの知見が集まっており、AAOMS は 2022 年に PP のアップデートを行った。このアップデートでは、病態と管理戦略に関する記載が改訂され、現在の研究状況が追記されている。

今回、日本においても歯科、医科に薬科を加えて新たに顎骨壊死検討委員会が組織され、ポジションペーパーの改訂が行われた。今回の改訂のポイントは、

- ① 疾患名を MRONJ とした。
 - ② 潜在性・非骨露出型病変であるステージ 0 は診断基準（骨露出）を満たさないことから分類としては残すものの、診断・統計から外した。
 - ③ 画像所見・画像診断の記載等の変更。
 - ④ 薬剤別、投与別の最新の MRONJ の発症頻度を調査・記載した。
 - ⑤ 抜歯をはじめとした外科手術前の予防的休薬の是非について、現状でのエビデンスに従う推奨を提示した。
 - ⑥ 新しい治療戦略を明記した。
 - ⑦ 医科歯科連携推進のための情報提供。
- などである。

今回、新しく出されたポジションペーパー 2023 の内容について概説する。

Profile

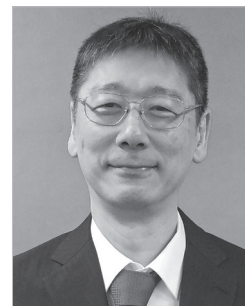
[略 歴]

1987 年 3 月	新潟大学歯学部歯学科卒業
1987 年 6 月	信州大学医学部附属病院 医員
1995 年 4 月	信州大学医学部附属病院 助手
1996 年 11 月	医学博士・博士 (医学) [信州大学]
1997 年 4 月	信州大学医学部附属病院 講師
1997 年 10 月	文部省在外研究員 スウェーデン カロリンスカ大学歯学部
2001 年 6 月	信州大学医学部 准教授
2011 年 7 月	信州大学医学部 教授

[社会活動]

日本有病者歯科医療学会・指導医・常任理事
日本口腔外科学会・指導医・理事
日本口腔科学会・指導医・理事
日本口腔インプラント学会・指導医・常任理事
日本顎関節学会・指導医・常任理事
日本口腔腫瘍学会・口腔腫瘍専門医・常任理事
日本頭頸部癌学会・理事
日本癌治療学会・評議員
日本顎顔面インプラント学会・指導医・評議員
日本口腔ケア学会・評議員
日本がん治療認定医機構がん治療認定医 (歯科口腔外科)
など

慢性腎臓病と歯科診療



国際医療福祉大学医学部腎臓内科教授
山王病院腎臓内科部長

竹 中 恒 夫

慢性腎臓病は我が国では約 8 人に 1 人が罹患されていて、有病率の高い疾患です。しかし、慢性腎臓病は特に初期は自覚症状に乏しく、そのため認知度は低く、多くの慢性腎臓病患者さんが診断されないまま暮らしているのが現状です。毎日の多くの患者さんの治療をされている先生は、必ず診察してしまっていることになります。

他の疾患と同様で、慢性腎臓病も早期発見が大切で、薬物療法も進歩したので早期であれば完治できる症例も増えてきました。しかし、現在の医療を持っても進行した段階で見つかった慢性腎臓病では、腎機能の悪化を遅滞させるのが治療の目標となっています。薬剤も腎機能保持に重要で、特に鎮痛薬は使用を控えるか、屯用での使用が望まれます。

慢性腎臓病が進み、腎機能が悪化すると腎代替療法が必要になります。腎代替療法には、腎移植、腹膜透析、血液透析の 3 種類があり、患者さんに説明をして御自身で選択していただく様になっています。高齢や HLA が合わない等の理由で移植が向かない症例の多くが血液透析を選択されます。

残念ながら高齢者や糖尿病患者の増加のため、透析患者は年に約 5,000 人のペースで増え続けており、現在約 35 万人の透析患者が我が国で生活されています。透析患者では高頻度に続発性副甲状腺機能亢進症の合併を認め、特に透析歴が 10 年を超えてくると、骨や歯は脆弱になってしまい、インプラントなどの治療の際に問題となることがあります。また、免疫力、特に細胞性免疫が低下しており、結核や新型コロナなどの細胞内寄生を来す感染症に罹患しやすくなります。歯周病も例外ではなく、透析患者では一般人口よりも多いとされ、特に糖尿病由来の透析患者では高頻度です。

血液透析は週に 3 回行うことが多いですが、透析日はヘパリン等の抗凝固薬を使用しており、抜歯などの観血的な処置は避けることが望ましいとされています。また、抗菌薬は β ラクタムであれば常用量の半量が適切な場合が多いが、ご使用される薬剤によって異なるので事前に主治医と対診されることをお勧めします。そして、透析患者は心血管疾患の合併が多く、局所麻酔薬の使用にも注意を要します。

上記のように透析患者は歯科疾患が多いのですが、診療には注意が必要になります。この講演が一人でも多くの慢性腎臓病患者の安全な歯科治療に繋がることを祈念します。

Profile

[略 歴]

昭和 58 年 慶應義塾大学医学部 卒業
昭和 58 年 慶應義塾大学医学部内科 入局
昭和 60 年 けいゆう総合病院内科 出向
昭和 62 年 慶應義塾大学医学部内科腎内分泌代謝科 助手（助教）
平成 2 年 米国マイアミ大学医学部研究員（内科学）
平成 4 年 米国チュレーン大学医学部研究員（生理学）
平成 5 年 大和市立病院内科医長
平成 6 年 新宿水明クリニック院長
平成 8 年 埼玉医科大学 非常勤講師
平成 19 年 埼玉医科大学 腎臓内科講師
平成 22 年 埼玉医科大学 腎臓内科准教授
平成 25 年 国際医療福祉大学 保健医療学部 教授
山王病院 腎臓内科部長
平成 26 年 慶應義塾大学 訪問教授
平成 27 年 北里大学 客員教授
平成 29 年 国際医療福祉大学 医学部 教授

[参加学会]

日本内科学会（認定医，専門医，指導医）
日本腎臓学会（専門医，評議員，指導医）
日本透析医学会（専門医，指導医，評議員）
日本高血圧学会（専門医，FJSH，指導医，評議員）
日本循環器学会
日本アフエレーション学会
日本病態栄養学会
日本ドック学会
米国腎臓学会
欧州腎臓学会
米国生理学会
米国心臓財団
欧州高血圧学会
欧州循環器学会
地域連携：みなと CKD（世話人）

糖尿病と歯周病： ガイドライン 2023 と最新のトピック



九州大学大学院歯学研究院口腔機能修復学講座歯周病学分野教授 **西村 英紀**

歯周医学研究は、『糖尿病と歯周病』の関連性を追求する領域が全体を牽引してきたと言って過言ではない。演者は、この関連性を追求する研究に基礎／臨床の両面から携わってきた。また、日本歯周病学会や日本糖尿病学会の診療ガイドラインの策定にも関与してきた。今般、日本歯周病学会の診療ガイドライン『糖尿病患者に対する歯周治療ガイドライン改訂3版』を上梓するにあたり、改訂版策定委員長を務め『糖尿病を有する歯周炎患者に対して歯周基本治療はHbA1cの改善に有効か?』というクリニカルクエスチョンに対して、初めてメタアナリシスを採用した。メタアナリシスが行えるということは相当数のランダム化比較試験が揃ったことを意味する。とくに、改善が期待できる患者は高感度C-反応タンパク（CRP）が治療とともに低下する患者群であることを概説した。演者らの検討によると、日本人で高感度CRPが上昇しやすい歯周病合併糖尿病患者は体格指数（BMI）が25 kg/m² 付近のプチメタボ様の糖尿病であった。つまり、歯周病による炎症が脂肪組織で増幅されCRPやHbA1cを押し上げている可能性を示唆した。国民健康・栄養調査では成人男性にこの範囲のBMIが多いこと、また糖尿病の頻度も男性が女性より高いことから、仮に糖尿病の自己申告がなくとも重度の歯周病を合併している働き盛りのやや小太りの患者であれば、糖尿病やその予備軍である可能性は否定できない。

一方、高齢化すると糖尿病であってもBMIが低下し、低栄養が問題となる。低栄養は感染を助長する。誤嚥性肺炎含む肺炎による死亡が増加している背景には超高齢化の進行があろう。高齢者の低栄養を回避するために、高齢者の歯科治療は機能の回復を重視すべきとの提言がなされている。つまり、可能な限り経口摂取を維持することが重要である。高齢者の多くはいわゆる貴学会で対応する有病者であることから、ここで高齢者における経口摂取の意義を再確認しておくことが肝要である。そこで最近の話題として、代謝学の観点から考える栄養の経口摂取の意義について概説したい。

同じ糖尿病であっても、生体の反応性は栄養状態で左右されることから、口腔との関連性も栄養状態からとらえる必要があり、過剰栄養と低栄養を区別して対応する意味について概説したい。

Profile

[学 歴]

昭和 60 年 3 月 九州大学歯学部卒業

[職 歴]

昭和 63 年 4 月 岡山大学歯学部助手
平成 2 年 4 月 米国コロンビア大学歯学部留学
平成 7 年 2 月 岡山大学歯学部助手
平成 9 年 2 月 岡山大学歯学部附属病院講師
平成 14 年 4 月 岡山大学大学院医歯学総合研究科助教授
平成 18 年 9 月 広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授
平成 23 年 4 月 広島大学病院副院長
平成 24 年 4 月 広島大学大学院医歯薬保健学研究院副研究院長
平成 25 年 4 月 九州大学大学院歯学研究院教授
平成 27 年 4 月 九州大学歯学研究院副研究院長
令和 3 年 4 月 九州大学病院（統括・歯科担当）副研究院長
令和 5 年 4 月 九州大学歯学研究院長

[受賞歴]

平成 11 年 5 月 14 日 日本歯科保存学会奨励賞
平成 11 年 6 月 22 日 The First Award in Basic Research Category of 7Th Meeting
of The International Academy of Periodontology
平成 17 年 9 月 22 日 日本歯周病学会学術賞

[社会活動 / 所属学会および役職]

日本歯周病学会（副理事長，常任理事，専門医・指導医）
日本歯科保存学会（指導医，理事）
日本糖尿病学会
International Association for Dental Research / Japanese Association for Dental Research（理事）
日本糖尿病合併症学会（評議員）
病態栄養学会（学術評議員）
日本歯科医学教育学会

【株式会社セキムラ 共催セミナー】

局所麻酔薬の使用に注意すべき 患者と静脈内鎮静法



日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座教授 山口 秀 紀

今日の歯科臨床において、局所麻酔は欠くことのできない手技・薬剤となっています。適切な局所麻酔は治療や疾患に伴う痛みから患者を解放し、快適な歯科治療を提供します。一方、歯科診療時に起こる全身的偶発症の半数以上が局所麻酔に関連して発生しており、その実施にあたっては最新の知見に基づいた細心の注意が必要です。

一般の歯科治療で局所麻酔を行う場合は、歯科用局所麻酔カートリッジが多く用いられます。そのため局所麻酔薬の使用に注意すべき患者について述べる際には、局所麻酔薬自体に対する注意点とカートリッジ添加物の問題点に分けて論じる必要があります。

局所麻酔薬による問題点として、局所麻酔薬アレルギーと局所麻酔中毒が考えられます。過去の局所麻酔時に何らかの不快症状を経験した患者では「局所麻酔薬にアレルギーがある」と申告してくることもあります。しかし歯科領域で最も頻用されるリドカインにアレルギーを有する割合は少なく、特にⅠ型アレルギーの発現頻度は0.00007%とされており遭遇する頻度は極めて稀です。詳細な病歴聴取から局所麻酔薬アレルギーが否定的と思われる患者には十分な説明が必要です。またこのような患者には精神鎮静法の応用が有効となることも少なくありません。

局所麻酔中毒は一般に成人ではほとんど問題となりません。一方、小児では使用量が過量となる可能性があります。現実には過量投与が疑われる医療事故も発生しています。これは小児への局所麻酔使用量が明確に示されていない事も原因の一つと考えられますが、小児への基準量を示したHC/6 (Half Cartridge/6 kg) ルールは、臨床家にとって小児への局所麻酔薬基準量を算定するための簡便な安全ツールとして期待できます。

カートリッジに添加される血管収縮薬については、多くの注意事項が指摘されています。特にアドレナリンの使用に関しては、高血圧症、心不全、甲状腺機能亢進症、糖尿病など使用に注意しなければならない疾患や患者状態が示されており、また循環作動薬や向精神薬など併用に注意が必要となる薬物もあります。講演では患者の全身状態や併用薬剤によるアドレナリン含有局所麻酔カートリッジ使用時の注意点について、従来の研究報告やステートメント、さらに当施設での対応なども交え解説していく予定です。

Profile

[略 歴]

- 1986 年 日本大学松戸歯学部卒業. 同大学研究生 (麻酔学)
- 1989 年 日本大学助手 (松戸歯学部麻酔学)
- 1994 年 日本大学講師 (松戸歯学部麻酔学)
- 2001 年 Australia Royal Brisbane Hospital 麻酔・集中治療科 (～ 2023 年)
- 2008 年 日本大学准教授 (松戸歯学部歯科麻酔・生体管理学)
- 2020 年 日本大学松戸歯学部附属病院副病院長
- 2021 年 日本大学教授 (松戸歯学部歯科麻酔学講座)

[社会活動]

- 日本有病者歯科学会 理事, 指導医
- 日本歯科麻酔学会 代議員, 指導医
- 日本歯科薬物療法学会 理事, 認定医
- 日本小児口腔外科学会 理事
- 日本医療安全学会 理事
- 日本口腔インプラント学会 基礎系指導医
- 日本障害者歯科学会 認定医
- 日本歯科医史学会 代議員
- 日本歯科医学会 学術研究委員会
- 日本歯科医学会連合 医療安全調査委員会

- 昭和 61 年 6 月 25 日 歯科医籍登録 (第 100396 号)
- 平成 元 年 8 月 27 日 日本歯科麻酔学会認定医 (第 404 号)
- 平成 9 年 5 月 17 日 日本歯科麻酔学会専門医 (第 101 号)
- 平成 11 年 6 月 16 日 千葉県介護支援専門員 (第 1748 号)
- 平成 17 年 10 月 14 日 日本障害者歯科学会認定医 (第 591 号)
- 平成 20 年 7 月 10 日 日本歯科色彩学会認定士 (第 00043 号)
- 平成 24 年 1 月 1 日 インфекションコントロールドクター (ICD)
- 平成 24 年 3 月 16 日 日本有病者歯科医療学会認定医 (第 0153 号)
- 平成 25 年 11 月 17 日 日本口腔インプラント学会基礎系指導医 (第 34 号)
- 平成 26 年 6 月 20 日 日本歯科薬物療法学会認定歯科医師 (第 D0035 号)
- 平成 26 年 3 月 21 日 日本有病者歯科医療学会指導医 (第 0195 号)
- 令和 2 年 4 月 1 日 日本歯科麻酔学 歯科麻酔指導医

医薬部外品



お口のトータルケアに

ヒノーラ[®] 薬用ハミガキ 口腔ケア用ジェル

抗菌・抗炎症成分配合

特徴



※イソプロピルメチルフェノール

効能・効果

- ・歯肉炎の予防 ・歯周炎（歯槽膿漏）の予防
- ・むし歯の発生及び進行の予防
- ・口臭の防止 ・口中を爽快にする
- ・口中を浄化する

ご注意

発疹などの異常が現れた場合は使用を中止し、医師、歯科医師に相談してください。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。直射日光のあたらない涼しい場所でキャップをして保管してください。成分由来の赤褐色の着色物が見られることがありますが、使用には問題ございません。アルミチューブのため強く折り曲げると穴があきジェルが漏れる場合がございます。



販売名
大塚口腔ジェルN



販売名
大塚口腔ジェルS

容量 25g



お口にうるおいを与える

ヒノーラ[®] うるおいジェル

口腔化粧品



販売名
大塚口腔ジェルWN



販売名
大塚口腔ジェルWS

容量 80g

特徴



※加水分解コラーゲン

ご注意

発疹などの異常が現れた場合は使用を中止し、医師、歯科医師に相談してください。乳幼児の手の届かない場所に保管してください。直射日光のあたらない涼しい場所でキャップをして保管してください。成分由来の赤褐色の着色物が見られることがありますが、使用には問題ございません。

製造販売元
日本ゼトック株式会社
東京都新宿区西新宿1-26-2

発売元
イーエヌ大塚製薬株式会社
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5
Otsuka

販売提携
大塚製薬株式会社
東京都千代田区神田司町2-9

販売提携
株式会社大塚製薬工場
徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

お問い合わせ先
イーエヌ大塚製薬株式会社 コールセンター
☎ 0120-014-010

＜'23.04作成＞

特許技術による
今までにない
スポーツマウスピース



Smop55
SPORTS MOUTH PIECE

今までにないフィット感

プロ選手 製作実績



導入医院様
募集中！



問い合わせフォーム

KEN.DENTALX
ケン・デンタリックス株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-11 デンタビル
tel:03-6801-8194 fax:03-6801-8195
info@ken-dentalx.com

SUNSTAR

BUTLER

口腔粘膜、気になる傷口のケアに

傷口をカバーして保護するお口の液体絆創膏

バトラー マウスベール お口の液体絆創膏

Mouth Veil Oral Liquid Bandage 液体包帯 一般医療機器

【分類】一般医療機器 【一般的名称】液体包帯 【販売名】バトラー マウスベール お口の液体絆創膏

【届出番号】27B1X00134000003 【内容量】90mL

※本品は一般医療機器「液体包帯」であり、保険請求はできません。

使用方法、使用上の注意などについては添付文書をご参照ください。

商品についてのご質問・ご不明な点は下記へお問い合わせください。

サンスター株式会社

〒569-1195 大阪府高槻市朝日町3番1号

TEL:072-682-4733

FAX:072-684-5669



※内容物のイメージ画像



“知と創造”で医療現場の未来を切り開く Next Innovation

サンユーメディカルは医療現場に「安心」をお届けいたします。

「開業支援」・「院内業務受託」・「医療機器販売」・「正規ディーラー」
の4つの主要業務を通じて、病院・クリニック様の充実した医療環境
構築をお手伝いさせていただきます。



株式会社 **サンユーメディカル**

〒113-0021 東京都文京区本駒込 5-5-9
TEL.03-3947-4430(代) / FAX.03-3947-4736



口腔・食道カンジダ症治療剤

薬価基準収載

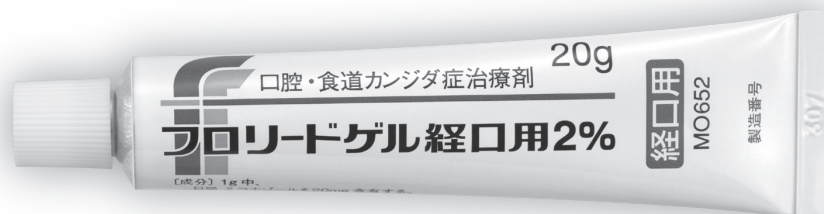
処方箋医薬品^{注)}

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

フロリードゲル経口用2%

ミコナゾール

20gチューブ



効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については電子化された添付文書をご参照ください。

GC

販売

株式会社 ジーシー昭和薬品

東京都板橋区蓮沼町76番1号

TEL: 0120-648-914

(受付時間) 9:00~17:30 (土・日・祝日・弊社休日を除く)



製造販売元

持田製薬株式会社

東京都新宿区四谷1丁目7番地

FRGA42M22NCP01
2022年4月作成

Thinking ahead. Focused on life.



Portacube+

ポータキューブ+

軽い、簡単、快適

ポータキューブ+ はチェアユニットと共通のハンドピースが使用可能な
All in One の訪問診療用ポータブルユニット。



プロモーション動画



製品紹介ページはこちらから

発売 株式会社 **モリタ** 大阪本社: 大阪府吹田市垂水町3-33-18 〒564-8650 TEL 06-6380-2525 東京本社: 東京都台東区上野2-11-15 〒110-8513 TEL 03-3834-6161 お問い合わせ: お客様相談センター 歯科医療従事者様専用 T 0800.222.8020 (フリーコール)
製造販売・製造 株式会社 **モリタ製作所** 本社工場: 京都府京都市伏見区東浜南町680 〒612-8533 TEL 075-611-2141 久御山工場: 京都府久世郡久御山町市田新珠城190 〒613-0022 TEL 0774-43-7594
販売名: ポータキューブ+ 一般的名称: 可搬式歯科用ユニット 機器の分類: 管理医療機器(クラスⅡ) 特定保守管理医療機器 医療機器認証番号: 301ACBZX00008000

Morita Global Site: www.morita.com

HYDROSONIC PRO

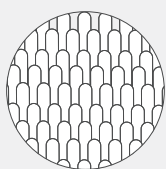
ハイドロソニック プロ

歯ブラシの理想を追求した革新的なブラシヘッド

ハイドロソニック プロは、歯と歯肉を優しくブラッシングするために独自開発された ^{クーレン}CUREN[®] 繊維と ^{クラカーブ}CURACURVE[®] で、口腔内を隅々までしっかり磨くことができます。

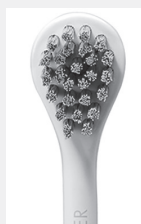


クーレン
CUREN[®]繊維は
歯磨きに適した
やわらかさと弾力性を備え
安定した性能を発揮します。*



パワーブラシヘッド

しっかりパワフルな毛質
健康な歯肉の方に



センシティブブラシヘッド

非常に柔らかい毛質
歯肉に炎症がある方に



シングルブラシヘッド

全てのリスク部位への
アプローチに



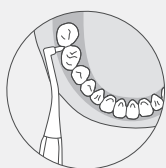
歯面にフィットして歯の隅角部にまで毛先が届くしずく形

磨きにくい部位にも毛先が届く

※歯ブラシの交換目安：約3カ月です。毛先が広がった場合は歯科医院にご相談下さい。



クラカーブ
CURACURVE[®]の
人間工学に基づいた角度は
磨きにくい部位にも
簡単に行き届きます。



Developed by Prof. Ulrich P.
Saxer and CURAPROX.

MADE IN SWITZERLAND



商品の詳細はコチラ



一般社団法人 日本有病者歯科医療学会

第13回学術教育セミナー

ご協賛企業

オーラス

株式会社 大塚製薬工場

ケン・デンタリックス株式会社

サンスター株式会社

株式会社サンユーメディカル

株式会社ジーシー昭和薬品

株式会社セキムラ

株式会社モリタ

株式会社ヨシダ

50 音順

第13回 学術教育セミナー プログラム・抄録集

2023 年 10 月 29 日

一般社団法人 日本有病者歯科医療学会 事務局
〒115-0055 東京都北区赤羽西 6-31-5 (株)学術社内
TEL：03-5924-3621 FAX：03-5924-4388

※無断転載，複製を禁止します